

# 新しい文学と

# 新しいそうな文学

四十歳で一万冊を読破した無類の読書家にして、彫琢された文  
体で織りなす深い思索に満ちた小説で知られる芥川賞作家、諏訪  
哲史さんに、文学の新しさとは何かについて語って頂きます。

一方、旅のマニアでもある諏訪さんは若い頃、世界五十ヶ国を  
旅した経験もあります。さまざまな経験に裏打ちされたお話は人  
を惹きつけて放しません。

学部生、他研究科の院生もふるって聴講してください。

## 《日時》

10月23日（月）  
15：20～17：00

## 《場所》

明治大学  
和泉キャンパス  
和泉図書館ホール

## 《講師》

諏訪哲史氏

【コーディネーター】

高遠弘美 商学部教授

### 【講師プロフィール】

#### 諏訪 哲史（すわ・てつし）

1969年生まれ。小説家。國學院大學で種村季弘に師事。  
卒業後も種村の指導を受ける。しばらく名鉄に勤務。大学時代  
から鉄道などで全国を回ったほか、世界五十ヶ国を旅する。  
1998年に書き、種村に称賛された小説「アサツテの人」  
を、師の死後、2007年になって発表。群像新人文学賞・  
芥川賞を同時受賞する。四十歳で一万冊を読破した読書家でも  
ある。以後、多数の作品を発表。哲学的思索に満ちた彫琢され  
た文体はきわめて高く評価されてゐる。

他の著書に、

『りすん』（2008年、講談社、2011年、講談社文庫）  
『ロンバルディア遠景』（2009年、講談社、2012年講  
談社文庫）『領土』（2011年、新潮社）『スワ氏文集（す  
わしもんじゅう）』（2012年、講談社）『偏愛蔵書室』  
（2014年、国書刊行会）『うたかたの日々』（2017年、  
風媒社）

編著に、種村季弘や日影丈吉のアンソロジーなどがある。

予約不要…学部生の受講可

※学外の方も受講可能です。事前にお電話ください。

【教養デザイン研究科 03・5300・1529】